場所　〒502-0812 岐阜市八代3丁目27-8「ふれあいスペース」

わいわい、がやがや、みんなで哲学

哲学カフェ de ぎふ

千秋（せんしゅう）まちかど文庫 通信

第174号
2023年1月

運営委員会発行（記録:安藤彰浩、編集:中川健史）（主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp

＜2023 新年のはじめに－明けましておめでとうございます！＞

「歴史を前に進めるためにちょっと何かを‥＜大転換＞を迎えて」

（長良川千鳥橋下にて 2022.12.29）

ロシアのウクライナ侵攻を機に、日本の政府はここぞとばかり、「専守防衛」という根本をかなぐり捨てる＜大転換＞を打ち出した。多くの論者だけでなく、この「哲学カフェ」にも疑念や非難、怒りの声を寄せられた。

政府は、「敵」の脅威に対して必要なのは、「敵」が攻撃をできないほどの「抑止力」を持つことに加え、攻めてくる前に攻める「先制攻撃能力」を持つことしかない、というのである。これまではアメリカが「矛」となって真っ先に「敵」を攻撃し、日本は「盾」に徹すということだった。「先制攻撃能力」をもつ日本が真っ先に「敵基地」「敵中枢機能」をやっつけることになる。「戦争国家」への大転換である。

戦後の日本が世界の人々の尊敬と信頼を得てきたのは、平和憲法をないがしろにしながらも、他国は攻めないという原則は守ってきたからである。この戦後日本の最大の宝物を放棄して、日本の未来は明るくなるのだろうか。そうは思えない。

先日、台湾から110キロの与那国島にミサイル配備を配備する計画も発表された。ここからミサイルを一発撃てば後はどうなるのか。ミサイルの応酬になって南西諸島、いや沖縄、日本全体が火の海になるだろう。そうならないように、抑止力として核兵器を「共有」すればよい‥狂気の沙汰である。

ここで疑問が起きる。こんな単純なことなのに、世論調査ではなぜ多くの人たちが防衛費（軍事費）の大幅増額に賛成しているのだろうか。なぜ大規模な集会やデモがほうふつとして起きていないのだろうか。様々な要因が考えられる。政府の広報と化したマスコミの影響、声を上げる余裕のない生活の苦境、声を上げても仕方ないという風潮、そしてこの問題についての意見交換を行う場や機会の不足などなど。

課題はいっぱいある。ただ、一つだけ言えることは、「仕方ない」とうっちゃるのではなく、皆がちょっと何かをやれたらよいなと思います。この場につぶやきを送るとか、「争いは終わるのよ君たちがそれを望めばね‥」（ジョンレノン、オノヨーコ）を口ずさむだけでも。新年が明るく輝く世になりますように。

吉田千秋（主宰）

哲学カフェ de ぎふ
千秋(せんしゅう) まちかど文庫　通信

第173回哲学カフェ例会(2022,12.8)

≪危機の時代の2022年をふりかえって　≫

「やはり最大の関心はウクライナ戦争であり、それをいかに終わらせるかでした。それにかかわって、戦争ができるようにする日本政府に対してもたくさん意見が出されました。新年には平和がやってきますように」

＜話題提供＞　主宰者:吉田千秋

・今年起きた出来事で、一番大きなものは、何と言っても、2月24日、ロシアの軍事侵攻で始まって現在も続いているウクライナ戦争です。当初、この侵攻を特殊軍事作戦と呼んでいましたが、これが侵略戦争であることは明らかです。この戦争は、単なる地域紛争ではなく、その影響は様々な形で世界に広がり、久しく感じなかった戦争の危機を身近なものにさせられました。

・他にも様々な危機に直面しています。喫緊の人類的な課題である温暖化、気候変動の問題があり、コロナ禍の終息もはっきりしていません。すでに第8波となり、危険度はインフルエンザと同程度だという意見もありますが、あきらかに「永続波」になっています。さらに、ウクライナ戦争をきっかけにエネルギー・食料危機が高まり、新たなかたちでの貧困格差も深まっています。こうしたことから、2022年は危機の複合的な進行、深化の年と呼ぶことができます。

・日本の状況を考えてみましょう。岸田政権は、安倍政権の課題をそっくりそのまま引き継いだようです。今後、近い将来日本が戦争を行う様なことになったなら、振り返って、今がその分岐点だったと言える重要な局面にあると思われます。今日12月8日が何の日か若い人たちは知っているでしょうか。日本がアメリカ領ハワイの海軍基地に奇襲攻撃を掛けて、太平洋戦争が始まった日です。その戦争は、国民を総動員して、悲劇的に終わりました。始めるのは簡単、止めるのは難しいのが戦争の常です。

・政府は今、敵基地を攻撃する能力を持つために、軍事力を強化することを目標に掲げています。しかし敵基地とはどこにあるのでしょう。北京(中国)や平壌(北朝鮮)を想定しているのでしょうか。大変重要な問題なのに、旧統一教会の問題の議論に大きく時間が割かれ、十分議論されないまま、大規模な軍事力増強の方向へ進もうとしていることが危惧されます。12月8日に始まった太平洋戦争が私たちに教える歴史の教訓を忘れない様にする必要があります。

・この1年、政治経済面をはじめ暗い話題が多かったですね。明るい話題といえば、サッカー日本代表がワールドカップでヨーロッパの強豪国を破って、決勝トーナメントに勝ち進んだことでしょうかね。その大きな要因は大半の選手が海外で経験を積んだことが大きいと思います。日本はいま、様々な分野でかなり疲弊し、内向きの閉塞状態にあります。この状況をどう打開していくかが新年に課された課題と思われます。今日は、この1年を振り返っての個々人の感想を出し合ってみたいと思います。

＜意見交流＞この1年、個人的に何が気になりましたか？

＊気になることはやはりウクライナ戦争。戦争の結末は悲惨。国同士の対立をどう解決するかにもう少し知恵を絞って、戦争を回避する方策を考える必要がある。

＊色々あるが、やはりウクライナでの戦争が気になる。他に安倍氏の殺害犯山上徹也、コロナ後遺症。

＊何と言ってもウクライナ戦争。ウクライナの悲惨な状況を見て、改めて戦争はダメだと思う。平和が大事。しかし、政府は軍事予算GDP比2%を目標に掲げている。全く違う方向を向いている。

＊ウクライナのことは確かに気になる。全く異なる話だが、サッカーのワールドカップを見ていて、今回から導入されたビデオ判定に感心した。疑問の残る判定で欲求不満の溜まる試合が無くなる。

＊日本の憲法や国連憲章の基本的精神が広まって、各地で小競合いはあっても大きな戦争を克服する方向に世界は進歩して来たと思っていた。だから今回のウクライナには驚かされた。残念ながら、第一次、第二次世界大戦の教訓が生かされていない。理性を持った人間は次第に平和の方向に進むと信じていたので、失望の念を禁じ得ない。人類はどうすれば戦争を克服することができるのか。

＊ウクライナ戦争をどういう風に理解すればよいのか。困惑していて自分の考えが何なのかよく分からない。当事者でない連中が、SNSなどで違和感を覚える意見を言って、引っかきまわしている。

＊歳を取って、子育てなど様々な負担から解放されて自由になった。悩み苦しんでいる訳ではないが、正直に言って、今後何を目指して生きて行けばいいのか分からない。これまで自分に身近な生活に関わることに追われて、世界のこととか知らないまま生きてきた気がする。ウクライナ戦争を見て色々考えるが、冷戦時代の世界について考えたことが無かった。

＊国連が機能不全に陥っている。改革が必要な事は明らかである。自分の支援活動を通じて言えることは、世間から見放された形で、人間関係が希薄で孤独、孤立の中で生きている人たちを何とかしたいということ。その大半はお金で苦労していて、もっと外の世界について知ろう、勉強しようという意欲を失っている。

＊最近気になったことは、現在ヨーロッパで見られる、一部の環境保護、温暖化対策を訴える人たちによる過激な抗議活動。例えば、少し前、オランダの美術館に侵入し、もっと重要な事にお金を使う必要をアピールする意図で、展示されているゴッホの絵画にトマトソースをぶっかける事件があった。その他にも、同様の事件がヨーロッパ各地で起きている。問題は、こうしたラジカルな抗議活動が、常に自然の破壊を伴うものである文明、乃至、人間の存在そのものを否定する危うい方向に向かう可能性を孕んでいることである。

＊現在世界は様々な危機に見舞われている。ウクライナ危機、財政危機、気候危機等々。こうした様々な危機の背後にあるのが、「今だけ、金だけ、自分だけ」というモットーに集約された新自由主義の考えがある様に思う。

＊自分は障害があって毎日の生活が物理的に大変である。シャワーを浴びるだけでも、2時間3時間、トイレだけにもかなりの時間がかかる。自分の辛いことで精一杯で、外の世界に関心を持つ余裕が無い。自分には、世界の危機は抽象的すぎる。

＊気になるのは何と言ってもウクライナ問題である。どうやったら戦争を止めることが出来るのか。国連の機能不全がウクライナ問題で浮き彫りになった。至る所で分断が大きくなっている。この克服が大きな課題だが、意見の交換そのものが難しくなっている現実がある。どうすればいいのか。冷笑主義が横行して、問題に真面目に対処、対応しようとする者が皮肉られる。

＊国連（国際連合）は、英語UNITED　NATIONSの名称の正しい訳ではない。国家連合が正しい名前であろう。国連はあくまでも自国の利益を中心に考える国家の代表が集まった機関である。何かを決めようとしても、あまりにもしばしば国家の目先の利益が露骨に優先される。だから国連に期待することに無理がある。

＊国連の様々な活動を歴史的に見て評価する必要がある。創設時に比べ、加盟国が大幅に増えている。大きな力を持たない小さな国が多数新たに加盟国となった。国の力が強くても弱くても、加盟国は全て同じ一票の投票権を持つ。そうした力を合わせて、核兵器禁止条約が成立した。国連は色々な分野で良い役割を果たしている。その役割は決して軽視できない。

＊アメリカの諜報機関は、昨年10月にロシアがゼレンスキー政権打倒を目標に、ウクライナに軍事侵攻することを決定したという情報を掴んでいたらしい。ウクライナは事実上ロシアの衛星国だった。ロシア側は

またそれを当然のことと考えていた。アメリカにとってラテンアメリカが裏庭である様に、ウクライナは言わばロシアの裏庭だった。ウクライナの学生と連絡を取る機会があった。今、脱ロシア化の動きがウクライナ国内で急速に広がっているらしい。

＊プーチン氏は軍事進攻を正当化するために、NATOが約束に反して東ヨーロッパに拡大してロシアの安全を脅かしていると申し立ている。これは本末転倒の言い逃れである。そもそもNATOはロシアを無視して一方的に拡大した訳ではない。問題は、東欧諸国がなぜ、それも例外なく全てのワルシャワ条約機構構成国が、NATO加盟を求めたかである。それは東欧諸国がロシアに対して強い不信感を持ち脅威を感じていることの反映である、ということを認識する必要がある。

＊冷戦後の10年間、西側NATO諸国とロシアはほとんど友好的な協力関係にあった。それは蜜月関係と言っても構わないもので、政治的、軍事的な対立、緊張関係とは程遠いものだった。G7はロシアを加えG8になった。クエート解放作戦である湾岸戦争も、ソビエトが常任理事国を務める安保理の議決に基づいて行われた。包括的核実験禁止条約（CTTB）等、様々な軍縮条約も、90年代に成立した。ロシアにはNATO大使がいて、オブザーバーとして、NATOの大半の会議に参加していた。
＊歴史的に見ると、ソ連が崩壊して、国際政治のパ

ワーバランスが崩れ、結果として、私たちは統制が利かない混乱の時代を生きることになった。国連は多くの矛盾を抱え、明らかに期待される使命を十分に果たせていない。国連憲章に書かれたことが本当に実現される様な世界になって欲しい。

＊国連は様々な問題を抱えているが、小国が直面する問題を世界に向かって訴えることのできる唯一の場所である。現に国連は、感染症対策や環境問題など世界の協力が必要な問題に取り組むために、重要な役割を果たしている。先日エジプトで開かれたCOP27で、加害国である先進国が被害を受けている途上国を財政的に支援する方向で、議論が進められた。貧困な小国の発展は国連無しでは実現できない。

＊子どもはあくまでも個人として自分の利益のために勉強する。でもそんな風に言える様になったのは、戦後のことである。そのこと自体はポジティヴな発展である。戦前、そんなことを言えば、とがめられたかもしれない。すべては天皇のためだったから。

＜意見交流の最後に＞　吉田千秋

・今日、議論の焦点となった問題について、少し補足意見を述べることにします。国家と個人の問題、または組織と個人の問題です。哲学カフェの例会でも、何度か、国家に絡み取られない個人を育てることが重要であるという問題提起をしました。ここで注意したいことがあります。「個人」というのは社会科学的に一般化された概念で、「自分」とは異なります。
・というのも、個人と国家の関係を議論する際、個人は「自分」が抽象化され、消えてしまった個人ではなく、あくまでも「自分としての個人」であらねばならないということです。だから、本来、「自分が国家に絡み取られないこと」が重要である、と理解される必要があります。過去において、戦争が勃発して、突然、「自分」が消えてしまって、「愛国者としての個人」が残るということが何度も起きています。だから私たちには、「日本（国家）に絡み取られない自分」を形成する課題があります。そのために自分を支える知識、認識を身につけ、他人とのしっかりしたつながりを持つことが重要になります。
・したがって「国家」「組織」との関係で「自分」を大切にする観点を持つ必要があります。だが、新自由主義が持てはやされた時代、今日でも「今だけ、お金だけ、自分だけ」という言葉をよく耳にします。これは、社会とのつながりを遮断するもので、元を正せば、それは、高度経済成長の時代に支配的な競争主義的価値観を端的に示した言葉です。

・今回のウクライナ戦争の歴史的背景には、ウクライナがソ連時代、事実上ロシアの属国だったという事情があります。現在の日本も「アメリカの属国」ともいうべき深い対米従属があります。アメリカの政治・経済・文化に対してあまり疑念を抱かず、知らないうちにアメリカの思惑通りの考え方、価値観になっていることに気付くべきでしょう。「国家に絡み取られない」というのは、「アメリカの言うがままにならない」も含めて、しっかりした「自分」を培いたいものです。

＜12月例会感想、意見、便りなど＞

〇＜私は考え続けなくては・・＞

迎撃ミサイルで人間の命は守れません。あれは誰かを殺す機械です。町で私たちが持ち歩いたら捕まってしまうような物を、国は「国民の命を守る」と言ってジャンジャン買うけれども、それでよその国の人が死ぬかも知れないのですよね。ウクライナの戦争を見ていて、戦争って国が人殺しにお墨付きを与えるものなのだなあ、とあらためて思います。

政治は少しも変わってくれない。何か訳の分からない、太くて巨大な力が自民党を支えていて、どれだけバカな人達がトップでも変わらない。だけど、未来のために私は考え続けなくては、とクリスマスを前に決意しています。

よいクリスマスを！　Peace!!　（渡邉佳織）

〇＜怪物：「戦争」＞　＊一部抜粋

「戦争」は突然、一夜にして起こった（起こされた）ように見えるが、その兆候路線はかなりの前期間にわたって敷かれている。その一つ一つに徹底した異議を大きな民衆規模で唱えてゆく必要がある。日本においても、その前哨戦はすでに始まってしまっていると考えるべきである。「平和憲法の改悪」、「秘密保護法制定」、「集団的自衛権行使容認」、「防衛費大幅増額」・・・これらは、ある日突然戦争突入を呼び込みかねない路線であると確認し、廃案への機会を徹底して追求する必要があるものと思われる。

それにしても、何故幾度も同じ過ちがくりかえされるのか。それは、戦争遂行者の反省が、本質的な反省に至っていないことである。彼らの多くは、敗れたことに対する、作戦失敗に対する反省であって、戦争を引き起こしたことそのものに対する本質的な反省がなされていないからである。これは、悲惨な戦時体験を語る民衆にさえ同様の問題意識があると言わざるを得ない。　（渡邉純二）

〇＜大軍拡について考える＞　＊一部抜粋

憲法や過去の戦争の実態は忘れられ、現状認識も確認することなく、「北と中国の脅威」だけでここまで進んでしまったことに戦前の繰り返しが浮かびます。戦前も列強と軍拡競争をして失敗した。日本のGDPは世界第3位であるが、一人当たりのGDPは、賃金水準とともに30位くらいである。軍事費拡大は、憲法違反の上に身の程知らずである。バイデン・岸田の約束に基づく軍拡ための財源議論ではなく、「戦争と核反対」の議論が必要である。米軍配下の自衛隊の軍拡は、米国の対中覇権争いの中で、米国には評価される。しかし、一旦台湾有事となれば、米国ではなく、日本が攻撃目標になるであろう。

ちなみに、北朝鮮の経済規模は、茨木県や鳥取県程度です。マスメディアもこうした事実を報道すれば、国民のむやみな危機感を醸成することもないのでは？　（後藤茂昭）

〇＜知恵をもった人間の野生をどう克服するか＞

人類は古代から戦争を繰り返してきた。無数の戦争史がある。一方では「戦争を起こさないようにしよう」とする考えや行動もあった。この考え方は第一次、第二次世界大戦を経て、日本国憲法に公的に表現された。この平和への志向は当時の日本に対応した主要各国指導者層の共通認識であった。

現在のウクライナ戦争は、「先進国」とみなされる一国のロシアが攻めて行って、「降伏せよ。要求を呑め」と、昔の王様の帝国主義そのものの行動を行なった。これに対しては各国が攻撃国に対して論理的な説得の働きかけが大事であるし、国連を通じての様々な働きかけが必要だろう。

知恵を持っている指導者層で、他方では自己中心の野生の行動を行ない、戦争や悲劇が起こった歴史も過去にはある。知恵を持った人間の野生をどう克服できるかがもう一つの問題である。

（アダム・スミス）

〇＜人間は戦争をやめることはできるのか＞

今年の最大の出来事はやはりロシアのウクライナ侵攻ということで、例会ではそれについてのいろいろな議論がなされました。その議論の一方で頭の中には、人間は戦争（＝殺し合い）をやめることなんてできるのかという根本的な疑問が浮かんできました。

だいいち人間は他のいろいろな動物を殺すことによって生存していることは否定できない事実ですし、現代の戦争の当事者である国民国家なんてものがフランス革命以降急速に増えた最大の理由は、国民国家はそれまでのどの国より戦争に強かったからだと言われています。そうすると倫理的にも、感覚的にも、構造的にも人間が戦争をしなくなるということは不可能じゃないかと思えてきます。いつかこの問題についてどう対応すればいいのかみなさんの考えを聞いてみたいです。　（たなか）

〇＜平和憲法の歴史をみつめ直したい＞

今回の「哲学カフェ」においても、世界の危機について意見を交わすことができてよかったと思う。地球環境の問題、コロナパンデミック、ロシア・ウクライナ戦争の問題。どれをとっても語りつくせるものではない。スカッとした解決策が提案されるわけでもない。しかし、日本はどうするのか、国民一人一人は何をするべきなのか。自分の問題として考えなければならないことは確かである。グローバル時代の日本及び日本人の強みは何なのか、どうすれば国際的な存在感を示すことができるのか。

日本の平和憲法の歴史をもう一度見直していきたいと強く思った。戦争の危機を避けるためには、絶対に戦争をしない日本・日本国民の強い決意が求められているように思う。人類の歴史において、軍事力・武力で平和が達成されたことはないことを、今一度肝に銘ずべきではなかろうか。　（MS）

〇＜ウクライナの冬に思う＞

今年のウクライナはロシアの侵略によって、間違いなく耐えがたい冬になる。現時点では、電気は30%の国民に届かず、物流もままならない状況で、人々の生存が危うい、という。多くの家庭の暖房は地域集中システムのスチームの供給網から得ているから、これが壊されていれば致命的。また、食料問題では、冬には寒さで野菜はできないから、夏野菜を酢漬け・塩漬けで大量に備蓄するが、それもできてないだろう。

この冬は突如として侵略を受けた最初の家族や親戚が集う冬。当然、現在はロシア語家庭ですら反露感情が強いが、「内なる親露」にどのように折れ合いを付けるか、論議は尽きないだろう。中には「分断」も生まれ、親露を貫きたい人も残る。でも今後の紛争の火種になっても困る。ボスニアやコソボの二の前は避けたいが、カナダのような寛容さは望めまい。

（フィリピン・ウォチャー）

＜この一本＞　監督：中江功　原作：山田貴敏『Dr.コトー診療所』2022.12 上映

2003年に人気を博したドラマが、2006年に続編が放映され、それから16年。とうとう劇場版映画が創作され、公開された。このドラマを観始めたのは、「北の国から」以来、ずっと親しみを込めて観てきた吉岡秀隆主演ということもあった。だが、最果ての島で奮闘する診療所医師のドラマチックな物語と、自然と人とのすばらしさに魅せられ、ずっと観続けていた。

映画は、2022年の「志木那島」を舞台に、テレビドラマでの主な出演者が登場し、懐かしい顔ぶれに出会ってほっとする。白髪になった五島健助は、看護師の彩佳と結婚しもうすぐ子どもが生まれる。新しい医師も加わり、看護師の那美と事務長和田も結婚して診療所を守り、島民は一見十数年前に比べてより安心で、ゆったりとした、おだやかな生活が流れているようだ。

だが、日本各地で進んでいる過疎化の政策と同じく、島々の「医療統合」によってこの診療所は廃止されようとしている。コトーは拠点病院の運営にあたるように要請されるが逡巡する。そのようなときに、台風が到来し、診療所は「野戦病院」化し、緊急手術を要する患者を優先するコトー・・彩佳の命か子どもの命かの選択も迫られる。

またもやドラマチックな、緊張した場面が連続する。さて、人々の命は救われるのか、診療所はどうな

るのか、コトーたち、村の人たちはどうなるのか。他人事ではない、現在と将来の自分事として考えさせられた一本である。ぜひ観ていただきたい。

（ sensyu ）

＜この一冊＞　養老孟司・山極寿一（対談）『虫とゴリラ』毎日新聞出版（文庫）、2022年

著名な虫の研究者で解剖学の権威でもある養老氏と世界的なゴリラの研究家で人類学者の山極氏による対談が収められている。二人はユニークな生物界の生態を紹介しながら我々の日常的な認識を覆し、現代文明に対する根源的な批判と提言を展開している。

今まで、自然科学系学者のこうした論考は、面白く考えさせられることも多いが、社会学的・歴史的考察が不十分な場合もあり、手放しに推奨する気になれなかった。しかし、この一冊は一味違う。それはそうした欠点を吹き飛ばすほどの鋭く深い観察眼と本質論議が披瀝され、言わば哲学的とも言える。

例えば、人間の多様性については、我々人間も自然の一部であり、他の生物と同様に「自然の在り様」から離脱できないとの認識が抜け、おかしくなっている。生物界の自然林は、たくさんのことが今までの研究の成果で説明できるが、まだまだ理解できてないことが山ほどありながらバランスを維持している。人間界も、未知なるものを包摂しながら相互依存関係を保っているのだ。だから、ある基準からそれらを無意味などとみなすのは、更なる豊かで深い理解・探求を阻害する有害な思考だ、と語る。

読み進むと、著者たちの研究分野に関わる難しい学会的話題？も登場し、素人では歯が立たない部分もある。が、この二人の巨人は実に広範囲に生命と文明を点検し論じており、我々の頭脳を洗濯してくれる。ことに教育や日本文化論・現代文明について、今までの「常識」を再考察する良い機会となるだろう。　（大橋健司）

＜ちょっと一旅＞ 「ホワイトクリスマス…樽見鉄道の旅」

12月24日、起きたら一面の雪景色で金華山も見えない。そこで先日いただいた「樽見鉄道一日フリー乗車券」を利用した「雪の樽見鉄道の旅」のチャンス到来と、小躍り気分。実は毎週土日運行のモレラ（樽見鉄道のモレラ駅）への直行バスを利用できる最高のタイミング。（土日＋雪＋フリー券の3条件。）
雪道で行き交う車は少ないが運転手さんの慎重な運転で無事到着。降車時、バスカードの支払いに機械が対応せず現金〈390円〉で支払ったが、どこか不思議な気持ち。（これは帰りのバスですっきりと晴れる。）

樽見鉄道モレラ岐阜駅から乗車する頃には晴れ間は広がったが、進行とともに雪は降っており、初めて見る「根尾谷の雪景色」を車中から撮る。途中「この画像の中に『電車』が入れば最高だ」と思う場所があったので午後は1時間ほど電車（上り下り）を待って撮影。

モレラのスポーツ用品のヒマラヤの男性店員さんの接客態度と対応の良さには心から感心した。（逆の店をあったので。） 帰りのバスの運転手さんは朝と同じ方で「今朝は機械の不具合で申し訳ない」と、帰りはカードで支払う。この運転手さんの正直な態度に感心し、今日のお二人の親切に、一日の疲れも飛んでしまった。（この日の歩数＝17,561歩）

（井口篤郎）

＊下記のhttpsをクリックすると見られます。
https://youtu.be/yQU8s67rXus（1:20）

哲学カフェ　第28期(2022年後半)例会予定　＊毎月第2木曜日、午後7:00～9:00 ふれあいスペース

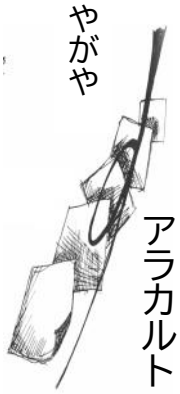
⇒ コロナ警報で中止の場合あり、テーマも変更あります。連絡下さい。

第175回例会 1月12日(木)	「新年の抱負、展望を語る」 ＊2022年はロシアのウクライナ侵攻開始から長期化する戦争の一年。 ＊新年はどのような年にしたいのか、展望ある年にできるか。語り合おう。
第176回例会 2月9日(木)	「いかに食糧自給率をあげていくのか‥このままでは危ない！」 ＊日本の食糧自給率は38%で、世界でももっとも低い水準。どうすればよいのか。 ＊米食を増やす、食品ロスを少なくする‥。根本は農政の抜本的改変ではないか。
第177回例会 3月9日(木)	「人工知能(ＡＩ)は人間社会にどのような影響をもたらすのか？」 ＊人間の言語や判断能力を組み込んだ人工知能(ＡＩ)は、急速に進歩し、様々な分野で、大きな影響を与えている。 ＊AIは人間の手助けから、人間に取って代わって多くの分野で人間を不用にする‥その功罪を考えてみよう。
第178回例会 4月13日(木)	例会テーマ:提案願います
第179回例会 5月11日(木)	例会テーマ:提案願います

哲学カフェの運営資金の協力 も、よろしくお願いします。
口座記号・口座番号 00810 1 142912
加入者名　哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫
「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中 !!
http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/

右のQRコードをスマホなどで読み取ると、「哲学カフェ de　ぎふ」のホームページが開きます。ぜひ閲覧願います。友人・知人に拡散いただければ幸いです。

わいわいがやがや



アラカルト

★正月元旦になると人は哲学者になる‥去年を振り返り、今年はどうしようかと思い巡らすものだから。とはいえ、そんなお利口な元旦の過ごし方をいつもするわけではないように思われる。

★実はボクは1943年1月1日、元旦生まれである。本当にそうなのか確かめたことはない‥昔は年末でも、年初でも2，3日はごまかして役所に届けたことはままあったようだから。

★その正月の前の夜、大晦日にはいつも、魚や野菜などのよろず屋の店は忙しく、子どもたちは皆手伝った。特に、正月用の鯛焼き、茶碗蒸しは特製で大変評判よく、日付が変わる時間まで、焼き、配達した。

★その明くる正月元旦、遅い朝食が終わり、昼食の時間が来るとふと気がつく‥あぁ一今日はボクの誕生日だ。そのことを皆に言うと、「そう言えばお前の誕生日だったねぇ」ということで、売れ残りの小さな焼き鯛をだして祝ってくれた。

★親になってもっとも鮮やかに想い出すのは、元旦を小笠原で過ごしたことである。東京の竹芝桟橋から29時間、小笠原丸に小学生の子ども3人、5人家族で年末に思い切って出かけた。

★セイブリーさんというハワイ島から移り住んだ人の家に民泊し、元旦に泳ぎ、ウミガメ料理を食べた。加えて、占領時代にスパイの疑いもかけられたセイブリーさんも「日本人」だと知り、日本は朝鮮の人、アイヌの人も含め、多国籍民族国だと実感したことはうれしかった。

★そんなことも想い出しながら迎える2023年。わが国で苦境に陥っている人たち、ウクライナ、ミャンマー、アフガニスタン、シリアたちがすべて、無事正月を迎え、明るい明日へ向かって歩まれることを願っています。　（吉田千秋）